



8日(火)、9日(水)に、岩手県洋野町の町民文化会館で、海洋教育こどもサミット in ひろの (東京大学海洋アライアンス等主催) が行われました。多くの東北の小・中学校・高校のポスターセッションがあり、1回目の昨年より、内容も進化していると感じました。名物のウニを使った料理の開発や、森と海の関係についての発表、そして、「海と生きる」をテーマにした気仙沼市の小学校の発表 e t c. それぞれが考えたテーマで、しっかり発表していました。



その後、各グループに分かれ、「海の哲学対話」を行った後、東京大学海洋アライアンスの日置特任教授から、次のような総括のお話をいただきました。①原稿を見ないで発表しているのを見て、いわゆる新しい学力が身についていると感じた②事実の発表だけでなく、どう考え、どう感じたかを発表するともっとすばらしい③取り組んだ時の感情を大切にしてほしい④海についての学習を通して、豊かなイメージで、未来を作っていくしてほしい。

海洋教育体験記その3

旭小学校 中山賢一 教頭先生

この研修は東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター／日本財団／笹川平和財団海洋政策研究所による共催事業で、「海洋教育の理論の講義や、カリキュラム開発の手法、フィールドワークや実技、ワークショップ等の実践的な研修を通じて海洋教育の理解を深めるとともに、それを実践・促進するためのスキルや推進体制を構築するコーディネート力等の諸能力を体験的かつ体系的に養うこと」を目的としています。

この壮大な目的からも推察されるように、多岐にわたる研修内容で、朝早くから夜遅くまで「海洋教育漬け」の三日間を過ごさせて頂きました。参加者は、遠く北海道から沖縄まで全国各地から参集していて、校種も小中高、社会教育施設と多様で、また私学や中高一貫校が多かったのも特徴的でした。みなさん使命感にあふれ、それぞれが情熱的に海洋教育を語る姿に、この教育の広がりを実感することができました。いくつか、印象に残った研修内容を紹介します。

【海が贈り人が与る】・・・研修のスタートにあたり、センター長からあった言葉です。私たちが文明・文化のまっただ中で暮らしながら、情感的な「海とのつながり」を無意識で求めている思議を超えた事実。この「贈り与る」関係を生み出すのが海への畏敬であり、人を「慎ましき」に向かわせます。この関係を子ども達に理解してもらうことが、海洋教育の大前提です。

【ブラタモリ】・・・永田町界隈を巡検。12万年前の古東京湾の海岸が造った台地や2万年前の氷期の谷を活用しての江戸初期の溜池など、実際に散策しながら痕跡を探りました。現地で説明され、そうした眼で眺めると本当に海岸線が見えてくるから不思議です。タモリさんの気持ちが、ほんの少しわかりました。

【カニがヒーロー】・・・行徳鳥獣保護区という東京湾岸埋立後に造成された人工の湿地・干潟で、環境再生の過程について学びました。干潟生物の採取では、私はずばりコメツキガニばかり大量につかまえました。講師によると、なんとと言っても人気ナンバー1はカニで、カニが出ると皆テンションが上がるそうです。ちなみに、今回のチャンピオンはウシガエルのオタマジャクシでした。

この他にも、多くの刺激的な体験をさせて頂きました。ありがとうございました。